

第1回 富士市教育振興基本計画策定委員会 議事概要

日時 令和2年6月2日（火） 午後6時30分～午後8時20分

場所 富士市庁舎 9階第二委員会室

出席者

[策定委員]

中山 早由里	田辺 敬子	佐野 弘美	渡井 裕將	来住 紗依
杉澤 陵太	田中 充彦	武井 敦史	那珂 元	田中 尚志
檜木 小重美	大石 久美子			

会議の概要

委嘱状・辞令書交付

森田嘉幸教育長より委嘱状・辞令書を交付する。

教育長あいさつ

皆さんこんばんは。教育長の森田でございます。どうぞよろしくお願いたします。

現在、市内の小中学校では、3月から新型コロナウイルスの影響を受けて、5月21日まで約3か月に及ぶ長い休業期間を終えて、6月1日から通常登校ということで、小中学校は再開いたしました。学校現場では改めて子どもたちの元気な笑顔、笑い声が聴こえてきているということで、私たちも喜んでいるところでございます。しかしながら、心配するところはたくさんあります。他市では第2波、第3波で、東京都では本日34人の感染者が発生したということで、心配は尽きないわけですが、私たち小中学校、市立高校含めてこれから児童生徒の感染防止に万全を期して、教育活動を進めてまいりたいと思っておりますので、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いたします。

さて、この度、策定委員の皆様にご検討いただく「富士市教育振興基本計画」は、富士市の総合計画の分野別行政計画として位置づけられ、本市における教育の目指すべき姿と施策の方向性を示す、教育に関するとても大きな指針となる計画であります。

国際化・情報化が進み、Society5.0社会の実現など、社会構造の急速な変革が見込まれる中、子どもたちには、学習指導要領の目指す「学んだことを人生や社会に生かそうとす

る力」「未知の状況にも対応できる力」「実際の社会や生活で生きて働く力」をバランスよく育む必要があります。また、生涯を通じて多様な学習の機会を提供し、一人一人の多様な個性や優れた才能を生かし、新たな価値を創造し、人が人としてより幸せに生きることができるような教育環境を整えることが大切です。そして、未来を担う子どもたち、社会の活力となる青少年、生涯学び続け成長する市民の皆様の学びを支えることが、私たち教育委員会の役割でもあります。

新たな教育振興基本計画においては、その教育委員会の役割を十分理解したうえで、これからの10年間の指針となる計画を策定してまいりたいと考えております。皆様から、忌憚のないご意見をいただき、充実した会となるようお願い申し上げます。簡単ですが私の挨拶とさせていただきます。ご審議の程、よろしくお願い申し上げます。

委員自己紹介

各委員が自己紹介する。

策定委員会の設置について説明

事務局より富士市教育振興基本計画策定委員会の設置について説明する。

議 事

(1) 委員長選出

策定委員会規則第2条の規定により、委員長を互選により選出する。武井委員が推薦され、全会一致で委員長に選出される。

(2) 副委員長指名

同規則第2条4項の規定により、武井委員長が那珂委員を指名する。

(3) 富士市教育振興基本計画について

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

(4) 意見交換

委員長	それでは事務局より基本理念について説明していただきましたが、今の説明について疑問点等ありましたら、挙手いただいて質問いただければと思います。よろしくお願いいたします。
-----	---

	<p>多分、何をどう質問したらいいのかわからないという状況だと思うのですが、細かくはまた見ていただければと思いますが、私の方で少し説明しますと、15ページの大きな表を見ていただければと思います。教育振興基本計画はどんな作りになっているかといいますと、富士市総合計画という富士市全体の計画があって、それとは矛盾しない形で作らなければなりません。国の方にも教育振興基本計画がありまして、それとも矛盾しないように作らなければなりません。そんなことができるのかといいますと、できるのです。なぜできるのかというと、左の方にあります「共助、環境、教養、健康、規律」や、「学び合い学び続けるふじの人づくり」という、抽象的な部分はだれがどう言ったとして反対はないのです。学び合いがいないという人はいないので。ここの部分、大綱的な目標はそんなに矛盾をきたすことは考えなくてよい。これは、市のアイデンティティの部分なので、それは市の方針を最大限尊重するという形をとる。ところが、だんだん下に降りてきて、施策の柱、重点的な取り組み、具体例といくと市の独自色が出てきます。ここの部分は、市の方針と文科省の方針がバッティングする可能性があるのと同時に、その内容が柱の立て方ひとつで変わってきます。そこの部分は相当程度丁寧に見ておいて、これから少なくとも5年間にわたる富士の教育が、より良い方向に流れるように考えていかなければならない、それが課題かと思います。</p> <p>今の私の説明をふまえて、本来は事務局が説明する部分かもしれませんが、どちらが説明しても矛盾はないと思いますので、何か特に初めての方でも、こんなところがわからないというのがあれば、率直に話をしたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
A委員	<p>流れとはちょっと違うかもしれませんが、今までの総合計画が令和2年度で終わりコロナの関係で4年からスタートするというので、空いてしまう部分については、どのように今までのものを継続するのかお聞きしたいのですが。</p>
事務局	<p>現在の富士市教育振興基本計画は、今年度が最終となる予定となっております。整合性をとらなければならない総合計画は、現在同じように今年度が最終年度の予定でした。新しくするもののスタートを1年あけて、令和4年にスタートすると思います。こちらに関しては動いている最中ですので、確定ではありません。それに合わせて、1年間空白になってくる部分を教育振興基本計画はどう持っていくかは、今後教育委員会会議等で最終的に決定して</p>

	<p>いく形にはなると思いますが、現状コロナの関係などで難しい部分もありますが、最終的には現状の延伸もありうると思っています。まったくの空白をとると、実際に毎年予算を決めてやっていくのが難しい部分もありますので、今の計画が10年間で終わりますが、1年延伸というように思っただければよいと思いますが、総合教育会議や教育委員会会議で決定する形にはなりません、今の段階ではこういう方向になります。</p>
委員長	<p>今、非常に良い質問をいただいたと思っております。教育の問題は権利保障になりますから、定めてあっても変わるときは変わる、そういう風に考えていただければと思います。ただ、変わるときは変わるので、適当に作っていいかというところではなくて、いろんなものが変わっていくときにどういう筋で変わっていくのか、筋論は重要なところがあって、例えば9月入学を考えると、一方では義務教育の学習指導要領に時間が設定されています、どれを何時間学ぶかです。それが学べていないわけだから、子どもの権利保障に劣るのではないかという考えが一方にあります。もう一方で、こどもの入学時期を遅らせるというのが一発で済めばいいですが、第2波、第3波が来て一年でも二年でも遅らせるのかといえ、そうすると結果論的に何も悪いことをしていないのに、落第をすることと同じになってしまいます。どの筋で考えていくか、最適解を導くためにこそ基礎的な議論をきちんとしておく必要があります。これは市民レベルの力が大きいと思いますが、教育振興基本計画の策定会議や、教育委員会の定例会とか、市民レベルの会議で筋論がきちんと定められていれば、何か起こってもぶれにくいということはあると思います。機敏な対応をとるためにこそ筋論をきちんと定めておく必要があると考えています。教育振興基本計画は、教育のためにあるものですから、教育振興基本計画が変えられないからということで停滞してはいけないというのが筋として参酌されなければならない。だからといって、次から作らなくていいかといえ、そんなことにはならない、このように理解いただければと思います。このような説明でよろしいでしょうか。</p>
B委員	<p>今日初めて策定委員会に出させていただいて、1週間ぐらい全部読ませていただいて頭の中には叩き込んできたわけですが、中身は全く間違いがないです。</p> <p>私は二つあると思うのですが、学びって何だろう、教育って何だろうということ。学びは人に優しくすることだと思えます。一つは、どういう子</p>

	<p>どもに育っていかなければならないか、見える化しないといけないと思います。お年寄りもそうで、地域の仕事をやっていると子どもとお年寄りは似ています。どういう人間を作っていくか、地域とどう関わっていくかです。もう一つ大事なのは、どういう学校を作っていくかということです。これを考えるチャンスがあるのではないかと思います。10年のスパンではかなり長いので、個人的にはきついなと思います。六次総の計画と合わせて考えていかないといけないので、そんなことは言っていられないので、行政的な視点があると思いますが、どういう学校を作るのか、これは地域と学校をどう結び付けるか、私の住んでいる地域は大変良い地域で、いろいろな方がいろいろな形で手助けをしてくれています。具体的にどういう学校、どういう子どもたち、先生方をイメージするかが大事なことだと思います。富士市がよそに負けられないような教育のありかたを考えていきたいです。</p>
<p>委員長</p>	<p>これは事務局で答えるような類のものではなく、この委員会で2年間かけて考えていく根本のことだと思います。何をもって子どもの幸せと考えるか、学びとは何か、それを支える学校はどんな形でありうるか、そのデザイン一つであり方はがらっと変わる。地域の方が関わるとしても、有償と無償のボランティアでは、どちらがいい悪いではなく、関わり方は当然変わっていきます。地域の方が運営するコミュニティスクールが入ってきていますが、コミュニティスクールで地域の方が何をどこまで決めていくかのデザインによって、学校の作りは大きく変わっていくだろうと。それをこれから考えていくわけですが、今回どうこうという話ではなく、これから皆さんに一言ずつ教育のどこが問題だと思っているかとか、ここを重要視すべきとか何らかの思いをお持ちかと思しますので、簡単に一言ずついただいて、次回まで相当時間がありますのでこういう形になればというアイデアがあれば、インターネットで調べてそれに近い実践をしている国や自治体があるかもしれません。問題意識をもって次回以降議論できれば良いと思っています。一言ずついただくということで、今日のところはよろしいでしょうか。</p>
<p>副委員長</p>	<p>地域の中で学校との連携の話がありましたが、去年フィンランドに図書館の関係で行ったのですが、フィンランドは学校図書館が学校の中になく、夕方になると保護者と一緒に子どもたちが地域の図書館に行って、様々な勉強をしたり、読み聞かせをしてもらったりということをやっているのですが、地域コミュニティの中に、図書館や美術館、アート教室、文化施設、劇場がありま</p>

	<p>す。中心ではないが図書館があって、地域の中で学んでいくわけです。地域で学ぶというのは、学校にも学びがありますが、学校の外で様々な分野の人たちの中で、交流を深めながら学んでいくと思いました。地域の中でその学ぶ必要性を、学校の中でのみ教育が発生するという考え方が、今までそうだったかと思いますが、ちょっと外に目を向けて地域の教育施設で学んでいく環境づくりがこれから必要なことだと考えました。</p>
C委員	<p>PTAの全国大会に参加して、地域と学校、保護者の三位一体というのをPTAでも考えていて、どれが欠けてもいけないのかなと思います。親御さんも共働きや核家族化で、地域と関わる方が少なくなってきたと思います。親が忙しくて地域と関わっていない状況があるのかなと思います。子どもを育てていて感じるのが、親が積極的に学校や地域に関わっていくことが子どもにつながっていくのを感じていて、学校でやってもらえると良いと考えることは、市の施設が良いものがあるのでそれをうまく活用して、地域のお年寄りも得意なものをされている方がたくさんいらっしゃるので、そういった方を学校に来ていただいて教えていただくとか、積極的な関わり方を深められたらいいなと思います。年代を乗り越えて、地域の幼稚園と小学校の交流、中学校と小学校、幼稚園、保育園の交流が持てると、いろいろな体験ができて人に優しくできるというような心が作られるでしょうし、その過程で地域の方に目を向けることができるので、親世代が関わっていく姿勢をとって子どもたちに伝えられたらいいなと思っています。</p>
D委員	<p>先日聞いた話ですが、こういう状況になって映像授業をやらないのかと怒鳴り込んできた保護者がいらっしゃるようなんですが、親がそうだとそれを見て子どもも何でも言っているのかと思ってしまう。自分のことだけでなく周りのことを考えるとかそういう力が育っていけば、ただ勉強ができるというわけではなく一緒に何かができるとかを育てていくのが教育だと思います。地域の関わりとか、学校が古くてトイレが汚いとか、学校へ行きたくないとなるといけないので、予算がかかる話ですが、新しい学校はきれいでいいなと思いますが古い学校はなかなかそこまでいかないの、徐々に行っていけばいいかなと思っています。勉強だけでなく、家庭で会話が弾むとかそういうのを第一にもっていけるといいかなと思います。</p>
E委員	<p>スポーツの関係から、今回のコロナで大会の延期や体育館の閉鎖で、一番最初に活動できなくなり、スポーツはプラスアルファのものなのかとその時</p>

	<p>思いました。2か月あけて先週くらいから再開したところ、明らかに子どもたちの集中が違います。今までスポーツ少年団や中学校の部活動で、ちょっと忙しすぎて疲弊していたのではないかと思っていたところで、ここで2か月休んでまた再開する。体を動かすことは心に密接に影響すると思いました。ぜひ今回の計画の審議の際にその視点からも考えていただければと思いました。</p>
B委員	<p>今心配なことがあります。子どもたちは元気でしたが、見えない部分があるのではないのでしょうか。子どもたちに大事なのは自分が違うことを気づいて、認めて許すということです。そういうことができる子どもが大事だと考えています。大人もなかなかできないですが、違いを認め合うことだと思います。各地区の行事が10月まで中止となりました。心配なのは今年度で一回役員が終わり、新しい役員さんがきます。今年一年やっていないですし、昨年も台風で一部中止になりました。心配なのは子どもの心、見えない部分を大人が救ってあげないといけないと思います。昨日今日と子どもたちが学校でわいわいしていましたが、半年、1年かかるのではないのでしょうか。お年寄りも集まりができませんので、人と人の対話や意見交換がなくなってきてしまっているなど。何か大きな課題になってくると思い、策定委員会とは違うと思いますが、教育委員会として子どもたちの見えない部分を私は心配しています。</p>
A委員	<p>私も自分の子どもには充実した環境の中で育ってほしいなと思うのですが、働き方改革が叫ばれる中で近くに教育現場で働いている方がいるので話を聞くと、現場の方たちはいろいろなことをやりたいという思いもあって、実際現場で働いているとやらなければならないことがあって、しかも残業してはいけないという、こうしたいのにできないといういつもの事務作業をしなければいけないというのを聞きました。どのようにしていったら一番いいのかわからないですが、地域の方の皆さんにご協力を得たりとかという中で、現場の人たちが働きやすい環境を整える、それを整えるにはどこか大きな力で制度を作るのは難しいと思いますが、地域の力を借りて子どもたちにしてあげたいということができる環境を、宿題ができていくかばかり気に取られて、本当はこうしてあげたいのにというのができないのが残念だと思います。何か変えられること、地域の力やスポーツ、アートなど、子どもに受けさせてあげるためには、子どもたちの近くにいる大人が元気に過ごせて</p>

	働けることが大事なのかと思い、そのあたりを考えてみたいと思います。
F委員	<p>この計画についての私の思い、親として富士市民として話をさせていただければと思います。一点目が、今キーワードに上がっていた地域というところでは、今回の休業期間中に私も子どもと過ごす時間が増えた中で感じたことは、私は小学校に子どもが通っていて、雁堤を歩くとか、実相寺に行くとかそういった地域を改めて見つめる、近所を散歩するというのが当たり前になり、地域にもう一度帰るといのが改めて実感しました。もう一度次の教育の中で、富士市でこういうところが子どものときに好きだったと思い出す、私も6年間県外にいて富士に戻ってきましたので、富士に帰ってきて良かったと思えるようなものを積み上げられるような具体策があれば、つながっていくと感じました。</p> <p>もう一点は情報がキーワードにありましたが、この1、2か月をみると、学校の中で何ができるか個人的な思いを考えたとき、私はフェイスブックが情報を収集できるなど実感しました。特別支援学校、コロナと検索すれば、全国の実践が2、3日後には千人位のコミュニティができていました。これも流行に乗ってではないですが、例えばズームを活用して何ができるか、富士市のお医者さんが作った朝の会、7時半に有志が集まってズームを通して学校関係なく子どもどうしが話し合うというのをやっていました。私が思うよりもいろんな所で地域とのつながりであるとか、子どもたちがそういった情報に触れる経験とか、今回のことがなければ県外や周りの人たちがパソコンを使ってこんなことをやっているんだ、情報に触れながら生きていくんだということを感じませんでした。激動の5年間とか、これからどうなるかわからない社会で、キーワードに情報ということは欠かせないかなと実感しました。もともとある地域の資源と、これからの社会に対応するのはこの会を通して勉強したいと思いましたし、検討すべきことかなと思いました。</p>
G委員	<p>現状、勉強不足のところもありますけれども、現在の教育的なアプローチですとか進化させていく方向になればいいなと思っていて、他の委員がおっしゃったような外に目を向けてみる大切だと思っています。私は富士市に住んで4年程度しか経っていないのですが、その中で2歳になる子どもができて、保育園の方にも携わらせてもらっていると、子どもの視点、こういうことがあったとか親に言う、親が聞いたり見たりすると、親の視点、いろいろ考えたりという作業が出てくるのでとても親の成長につながり、地域に</p>

	<p>積極的にかかわり、親の成長、視点が育っていくと思うので、いいなという意識をもっています。現在これをどう発展させていけるか、私の場合は教育の初歩の部分から進歩ができればいいのかなと考えています。</p>
H委員	<p>昨年、文科省の方に出張に行かせていただいた時に、ある方がドイツの学校を視察されて伺ったのですが、ドイツの学校の先生は生徒に意見を求めて指すときに番号で言っていたそうです、8番の人、10番の人とか。その視察に行った方がなぜ番号で言ったのですかと聞いたら、私は勉強を教える仕事で一人一人の名前を覚えなくても構わないというふうにおっしゃったそうなんです。全部の学校がそうかはわかりませんが、先進国では学校の教員の仕事は役割が絞られているんですが、そんな学校はいやだなと私は思って、番号で名前を言う学校はいやだなもちろん思うのですが、逆に言うと日本の学校は勉強を教える以外にいっぱい、〇〇教育が多すぎて、いっぱいやるのがあって、どういうことかなといつも思っているのですが、今回のコロナのことがあって学校に来られない子どもたちに学校は何ができるのかなと、学校の役割は何かと考えました。先ほどから地域や保護者との三位一体という言葉も出てきてすごくうれしいなとっていて、学校に求められていることは何かと思いつつながら考えてこれをやっていかなければならないと思っています。教育振興基本計画の柱が、A3版の大きい施策の柱が5つあるのですが、なぜこの5つの柱なのかとっています。もしかしたら、平成23年の時はスポーツ振興課とかが市教委の中に入っていたんですね。だから市民文化とか生涯スポーツとか入っているのかなと。今度富士市教育委員会が作るので、どこまでの範囲で、幼稚園の先生も来てくださっていて、教育というと幼児教育だって青少年の教育だってみんな入る、社会教育だって入ってくるし、どこまでの範囲の基本計画になるのかなと思いつつ伺っていました。課ごとの柱になるのか私はイメージがわからない状態です。</p>
I委員	<p>私は、幼児教育は人格形成の根っこの部分とよく言われます、もちろん皆さんもご存じのとおりですが。12ページに行くと、目指す市民像ふじの人というのがあって、そこに高齢者から乳幼児期まであって、乳幼児期が根っこの部分なんですよ。いろんな意味で乳幼児期の教育の部分が、注目を浴びている部分があるものですから、皆さん興味を持ってくださっているのではないかとっています。ぜひ、他の委員もおっしゃいましたが、枠が広がってこの乳幼児期の部分がどこに入るかわかりませんが、乳幼児期があっ</p>

	<p>て学校教育ですよ。それがないと育っていかないので、ぜひその部分を重く受け止めてと言うか、仲間に入れていただきたいと思います。</p>
<p>J 委員</p>	<p>学校の中の当事者ですので、半分困ったなと思いつながら、子どもを目の前にイメージして、どういう学校を作っていくかという中でどういう子どもを育てていくかを考えます。先ほど出てくる言葉として、コミュニティスクールがあります。皆さんもご存じだと思いますが、今年小学校は8校入って16校になります。中学校は2校なのですが、コロナの関係ですべて止まっています。正直、コロナの対応でてんでこ舞いだったので、昨日から学校が始まってこれからどうやっていこうかなと考えなければいけないのですが、コミュニティスクールも地域も保護者も学校も、一緒に子どもたちを育てていこうということが根っこにあると思います。私の小学校は田舎の学校ですが、子どもたちを見ていて田舎なので地域にいろいろな行事があるんです。子どもたちを見ていて、やってもらって当たり前という、そうではないと思っていました。それを思ったのが、田舎の子どもたちだから挨拶ができるだろうと思っていたらできないんですね、これが。犬を連れて下からおばあちゃんが上がってきたときに、うちは集団登校をしているものですから、10人位列になって下りてきたんですね。一人一人におはようと言っているのにほとんど挨拶を返してなくて、ショックを受けてしまって、これではいけないということで朝礼で挨拶をしていこうと、地域の方に挨拶をしないといけないうと。これからコミュニティスクールで地域にいろいろな人が入ってきてくださって、子どもたちに携わってくださって、愛される子ども、また学校に行ってみたいなと関わっていききたいなと思っていただけるような子どもたちにしていけないとコミュニティスクールもうまくいかないのではないかと、ウインウインではないですけども行ってよかったと思ってもらえるようにと考えています。</p> <p>スポーツ振興と文化振興の話が先ほど出ましたが、私もずっと思っていて、私は教育振興基本計画ができたときに入って、3年間終えて次の見直しの時にスポーツ振興課と文化振興課が市長部局に移管されて、このあと振興計画はどうするのだろうかと思っていました。自分も担当から離れてしまったのでその後どうなっているかはわかりませんが、後期計画を見てもスポーツや文化のところは入っていて、当然5つの「共助、環境、教養、健康、規律」を兼ね備えた総合的な人間を目指していくのは、教養の部分で文</p>

	<p>化であったり、健康の部分でスポーツがあったりと当然入ってくるだろうと。そこは市教委の中でどういう位置づけになっていくのかなというのが読み取れないわからない部分だったので、こういう位置づけである、こういう風にコラボしているというのが見えてくるとありがたいなと思いました。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。非常に皆さんの射たご指摘をいただいて、一つ一つのことが教育振興基本計画を作るために密接に関わってくることと思っています。地域と学校の関係、保護者の問題、障害の問題、教育委員会の組織の作り、私がこれから10年といわず数年で間違いなく来るのは、大きな学校教育の変革は、今までの日本の教育は年齢主義、ある一定の年齢の間学校に行って、教室で座っているのが権利保障なんですね。基本的に学校にちゃんと行けていれば、中学校まで卒業できるわけです。年齢主義の考え方が、相対的にこれから通用しなくなってくると思います。大きく分けて3つ要因があると思いますが、1つはコロナ禍に象徴されるように、現実問題として一定時間授業時間確保できなかったとき、今年度は特例措置でやるのかもしれないですが、これから二度とないという保証はないわけです。そうすると、相対的に学校に出席して教員が一定数配置されて、その前で座っていることが権利保障だという考え方は取られなくなっていくだろう。もう一方、先生の側にも言わずもがな働き方改革で、今の仕事をやるだけで先生方はあふれてしまっているわけです。コンプライアンス上ももっと守らなければいけないのですが、守ったら子どもの教育が成り立たなくなる状況になってしまう。予算をつけて先生を配置してくれるのかといえば、それだけのゆとりはないという状況になっている。教員も今までと同じような、履修主義、年齢主義の考え方は取られなくなる。さらに子どもの側も、特別支援や外国籍の子どもが増えてきたり、不登校の問題も増えてきて、いまや同じ一つのシステムの中で教室に出席しているというのが難しくなっている。一方タブレット学習をはじめとする様々なツールが入ってきている。そうすると、昔ながらの日本の教育を守っていくんだというやり方では、到底対応することができなくなっているのは火を見るより明らかである。そこで忘れてはいけないのが、たとえどんなに形が変わっても、教育の機能は残さないといけないですね。先ほど他の委員からありましたが、AIが入ってきて、学習の一部がいろいろ変わってきたとしても、お互いにコミュニケーションを取ったり、多様な人と関わるという機能は残していかないといけない。たとえ</p>

て言うなら、一回組み立てられた家を分解して、また別の家を建て直すんだと、いままでと同じような、今まで以上の機能を備えていないといけない、こういう作業を数年以内にしていかないといけない。富士市は地域性も豊かで、地域が学校に協力的だというのは存じ上げているので、良い部分を最大限残しさらにいい形を作っていく、良い形を維持していくためにシステムとして変えなければならぬところは、ちゃんと変えていかなければならない。さきほど言われたことと関わるのですが、この施策をどういう柱で作るかということが、教育委員会内にどういう連携を作っていくか、組織をどう整備していくかということなんですね。すべてをみんなで協力してやりましょうという精神論ではいけませんので、当然課ごとに分けないといけない。どこどこをどういう風につなげていくかということは、事務局の方から案を出してもらって私たちがそうですかというのではなくて、我々が議論しているいいことだと思います。課題は大きいですが、最適解、最善の解を我々で出していこうというのがこの2年間と考えています。今日のところは何をどうするかの話ではなくて、それぞれの課題意識を出し合って、これからやっていくときの足場固めという形にさせていただければと思います。皆さんから何かありますでしょうか。なければ事務局にお返しさせていただきます。

次回の日程等について

事務局より、今後の会議日程について説明する。次回は、9月3日（木）庁舎5階第2会議室にて開催予定。

閉 会